

## 「パウロ、エルサレム神殿に行く」

2016年08月25日

使徒言行録 21 章 20 節～26 節 これを聞いて、人々は皆神を賛美し、パウロに言った。「兄弟よ、ご存じのように、幾万人ものユダヤ人が信者になって、皆熱心に律法を守っています。この人たちがあなたについて聞かされているところによると、あなたは異邦人の間にいる全ユダヤ人に対して、『子供に割礼を施すな。慣習に従うな』と言って、モーセから離れるように教えているとのこと。いったい、どうしたらよいのでしょうか。彼らはあなたの来られたことをきくと耳にします。だから、わたしたちの言うとおりにしてください。わたしたちの中に誓願を立てた者が四人います。この人たちを連れて行って一緒に身を清めてもらい、彼らのために頭をそる費用を出してください。そうすれば、あなたについて聞かされていることが根も葉もなく、あなたは律法を守って正しく生活している、ということがみんなに分かります。また、異邦人で信者になった人たちについては、わたしたちは既に手紙を書き送りました。それは、偶像に献げた肉と、血と、絞め殺した動物の肉とを口にしないように、また、みだらな行いを避けるようにという決定です。」そこで、パウロはその四人を連れて行って、翌日一緒に清めの式を受けて神殿に入り、いつ清めの期間が終わって、それぞれのために供え物を献げることができるかを告げた。

パウロは現在のギリシアの都市の諸教会、そしてトルコの西海岸の諸教会を巡り、長い船旅をして、ようやくエルサレム教会に辿り着いた。主イエスの弟ヤコブや長老たちが集まり、再会を喜び合った。異邦人教会からの支援金を届け、また、神が異邦人の間で行われた福音宣教は大きな成果が上がったことを報告した。報告を聞いた長老たちは神を賛美した。しかし、パウロを迎えたエルサレム教会には二つの恐れが生じた。一つはパウロが来たことを知ったユダヤ人たちがパウロ殺害を目論むことである。もう一つは、パウロの仲間と見られる教会はステファノの時のような迫害を受けることであった。長老たちは既に話し合っていて、パウロに「兄弟よ」と呼びかけ、具体策を提案した。エルサレム教会にはユダヤ教徒からキリスト信者になった人が幾万人もいる。これはいささかオーバーな数であろう。彼らは皆、律法を熱心に守っている。彼らは、パウロがディアスポラのユダヤ人に対し、子どもに割礼を施すな、ユダヤ教の慣習、律法に従うなどと言って、モーセから離れるように教えていると聞かされている。

パウロがエルサレム来たことはきっと知られてしまう。すると、パウロ自身もエルサレム教会もユダヤ人から激しい反感を買うことになる。そこで、長老たちで話し合った通りにしてほしい。信者の中で、4人がナジル人の誓願を立てた。彼らをエルサレム神殿に連れて行き、パウロも清めの儀式を受け、そのための献げ物の費用を出してもらいたい。そうすれば、律法を無視するというパウロの噂は根も葉もないことであったことが証明できる。異邦人で信者になった人たちについては、使徒会議で律法の重荷は一切負わせないと決めた手紙を既に書き送っている。ただ、偶像に献げた肉と、血と、絞め殺した動物の肉とを口にしない、また、みだらな行いを避けるようにという「使徒教令」だけである。

パウロは長老たちの申し出を受け入れ、翌日4人を連れて、一緒に清めの式を受けるためにエルサレム神殿に入った。そして祭司に、清めのために必要な犠牲をいつ奉獻するかを聞き、その費用を支払う予定にした。パウロは騒動を避けるために、律法を遵守するユダヤ教徒のように振る舞った。しかし、この振る舞いは成功しなかった。